

# WideAngle リスクスコアリングのご紹介



20xx年xx月xx日  
NTTコミュニケーションズ株式会社

# WideAngleとは

「WideAngle」はNTT Comが提供する  
グローバル統一の総合セキュリティサービスブランドです



WideAngleという名称には、標的型攻撃など未知の脅威に世界がさらされる中、  
広い視野でリスクを見通し、より安心・安全な社会を志す開拓者でありたいという思いを込めています。

NTT Comは、WideAngleブランドのもと総合リスク マネジメント サービスを積極的に展開し、  
マネージド セキュリティ サービス プロバイダー（以下MSSP）のグローバル トップ プレイヤーを目指します。

# セキュリティ状況を把握することの必要性

# このようなお困りごとはありませんか

## 自社セキュリティレベルの把握



- ・ 自社のセキュリティ対策の改善や今後の対応方針を決めたい
- ・ セキュリティ対策といっても何から対策すればいいかわからない
- ・ 簡単に安くセキュリティ対策を始めたい
- ・ 効率的にセキュリティ対策を行いたい

## 取引先のセキュリティの 把握または報告



- ・ サプライチェーンのセキュリティレベルを把握し管理したい
- ・ 委託先、取引先のセキュリティレベルを確認しておきたい

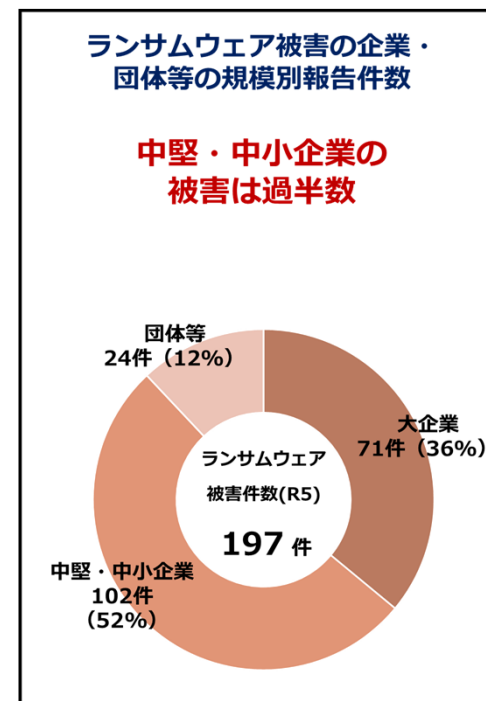
# セキュリティ脅威の実情

企業規模にかかわらずセキュリティ製品を導入していればセキュリティ対策は十分だと考えている企業は多く存在します。しかし攻撃者はサプライチェーン全体を偵察し弱点をついてくるため、企業規模にかかわらず対策不足の企業が狙われるケースがあります。狙われたサプライチェーンの企業の中には、実際に攻撃を受けていても気づけていないケースも数多く存在しています。

## IPA 情報セキュリティ10大脅威(年代別)

セキュリティ脅威(組織)	2024年	2023年	2022年	2021年	2020年
ランサムウェアによる被害	1位	1位	1位	1位	5位
サプライチェーンの弱点を悪用した攻撃	2位	2位	3位	4位	4位
内部不正による情報漏えい	3位	4位	5位	6位	2位
標的型攻撃による機密情報の窃取	4位	3位	2位	2位	1位
修正プログラムの公開前を狙う攻撃(ゼロデイ攻撃)	5位	6位	7位	-	-
不注意による情報漏えい等の被害	6位	9位	10位	9位	7位
脆弱性対策情報の公開に伴う悪用増加	7位	8位	6位	10位	14位
ビジネスメール詐欺による金銭被害	8位	7位	8位	5位	3位
テレワーク等のニューノーマルな働き方を狙った攻撃	9位	5位	4位	3位	-
犯罪のビジネス化(アンダーグラウンドサービス)	10位	10位	-	-	-

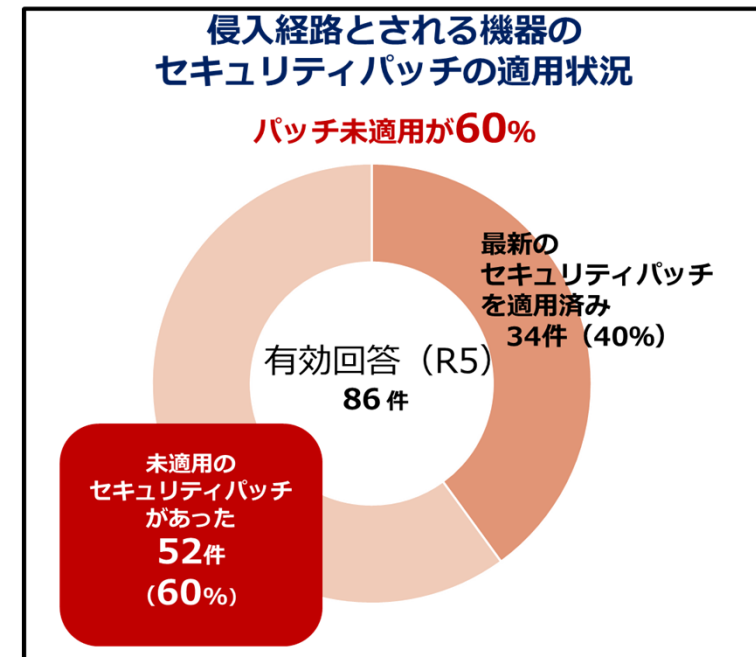
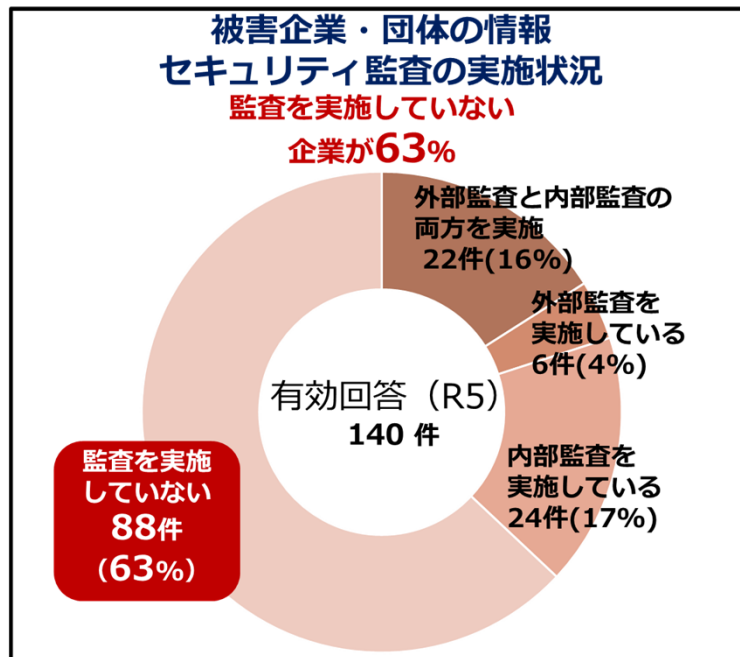
出典: IPA『情報セキュリティ10大脅威』2020～2024年版をもとに作成



出典:警察庁 令和5年におけるサイバー空間をめぐる脅威の情勢等について

# 昨今の被害状況

- 被害を受けた企業の63%はセキュリティの監査を行っていないと回答しています。
- 侵入経路とされる機器に対してセキュリティパッチを適用していないとの回答は60%となっています。



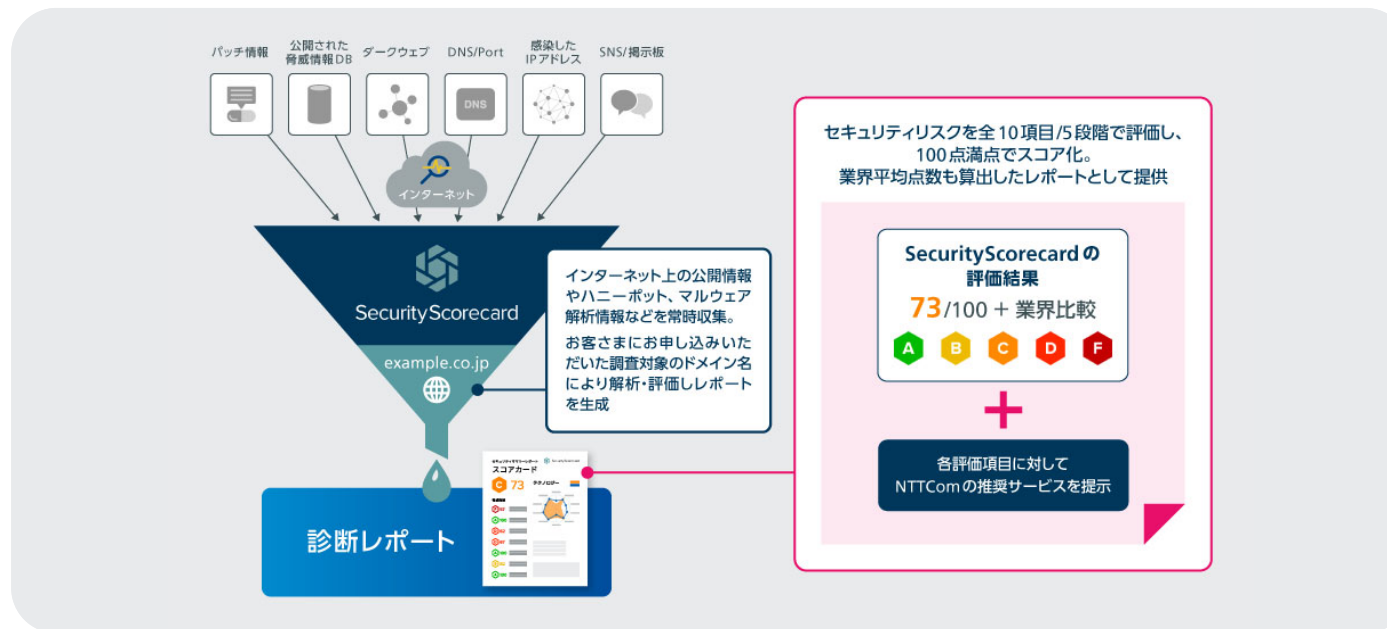
出典:警察庁 令和5年におけるサイバー空間をめぐる脅威の情勢等について

**リスクスコアリングで安価に自社のセキュリティリスクを認識し、必要な対策は何かを把握できます。**

# WideAngle リスクスコアリングとは

# サービス概要

- ・リスクスコアリングは、「Security Scorecard社」のサイバーセキュリティリスクレイティングを利用したサービスです。
- ・お客様のドメインに紐づくインターネット上の公開情報を自動で定期的に収集・分析して評価レポートを生成します。
- ・評価レポートの各評価項目に対して、リスク低減に有効な対策案や推奨サービスを掲載した推奨サービスレポートを提供します。



※お客様にてSecurity Scorecardのポータル画面を操作することはありません。



# 提供内容

選べるプランをご用意。「定期診断」「スポット診断」をそれぞれお求めやすい価格で提供します。  
診断対象のドメイン数により価格が決定します。

	定期診断	スポット診断
診断レポート提供回数	毎月	1回
提供価格（1ドメインあたり）	2万円（税込2.2万円）／月	8万円（税込8.8万円）／回
診断レポート内容	詳細レポート+サマリーレポート	詳細レポート+サマリーレポート
リスク対策の推奨サービスレポート	○	○
お問い合わせサポート期間	契約期間	3カ月
診断レポート解説（オプション） お申し込み	○	○

## 提供内容（定期診断）

定期診断では毎月、セキュリティスコア結果の詳細レポート+サマリーレポートと、対策サービスレポート、問い合わせサポートを提供します。毎月診断レポートのスコアを確認することで、セキュリティリスクの推移を把握することができ、対策状況の確認に活用することができます。



※定期診断の最低利用期間は1年です。

## 提供内容（スポット診断）

スポット診断ではセキュリティスコア結果の詳細レポート+サマリーレポートと、対策サービスレポート、3カ月間のお問い合わせサポートを提供します。詳細レポートでは、サマリーレポートの10項目のカテゴリよりもさらに、詳細な項目レベルまで掲載。具体的なセキュリティリスク箇所を示しているため、より詳細に分析が可能です。



## 提供機能①（サマリーレポート）

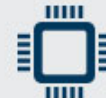
10項目のカテゴリ評価と総合評価を、5段階（A～D,F）のランクと100点満点の点数で行います。  
また業界平均との比較グラフで、自社のセキュリティ対策レベルが一目で分かります。



以下の様な業種区分で相対評価が可能です！



小売業



テクノロジー



金融業



食料品



医薬



エネルギー



建設業



教育

など

SecurityScorecard

www.scs.com/japanese | ホーム | お問い合わせ | KJISB

アクション項目

質問	重大度 スコアへの影響	検出された問題点
アプリケーション・セキュリティ	-0.4	HSTSリダイレクト・パターンが安全ではありません。サイトのドメイン・リダイレクトは、設定したHSTSヘッダーとHTTP Strict Transport Security (HSTS) ヘッダーの両方より有利な権限を持っています。なりすましサイトや悪意のあるサードパーティーがリダイレクトされる危険があります。
	-0.5	HSTSのベスト・プラクティクスがWebサイトで実装されていません。WebサイトがHTTPSで保護されている場合でも、明示的に指定されない限り、ほとんどのブラウザはHSTSでのWebサイトの接続を強制しません。Webサイトの脆弱性により、攻撃者はHTTPSとの接続を強制的に切断したり、攻撃者が本来のHTTPS Webサイトにアクセスするのを妨害したり、ユーザーに偽造のWebサイトへリダイレクトを試みます。(注：適切な HSTS の構成を行うことで、ユーザーは最終的にWebサイトを再インストールし、正しいURLで再接続されることがウェブサイトにすぐに反映するため、この中間段階の危険にはさらされています)
	-0.6	コンテンツ・セキュリティ・ポリシー (CSP) がありません。CSPディレクタティブは、Webページのインライン・スクリプトを実行することを禁止してWebページからデータを収集します。これにより、誤ったリソースや悪意のあるリソースをWebページに注入される(その後、ユーザーのブラウザーによって実行される)を防ぐことができます。
	-0.1	WebサイトがXFrame-Optionsのベスト・プラクティクスを実装されていません。XFrame-Optionsを明示的に指定しないこと、信頼できない別のWebサイトのページ上のフレームにサイトが埋め込まれる可能性があります。この手段は、ソーシャル・エンジニアリング攻撃をより正確に見つけるために使用されたり、クリックジャック攻撃に関連付けられます。
	-0.1	WebサイトがContent-Type Optionsのベスト・プラクティクスを実装できていません。ブラウザーはコンテンツの種類に分類し、MIME タイプ・ヘッダーの確認とは異なる方法でコンテンツを確認しますが、これは、セキュリティの問題を引き起こる可能性があるコードの存在につながる可能性を含んでいます。たとえば、攻撃者は、乗っ取り攻撃者を使用して悪意あるコードを通じて攻撃し、インジェクションを行ったりブラウザにそのコードをJavaScriptとして実行させる可能性があります。
エンドポイント・セキュリティ	-0.4	古いオペレーティング・システムが確認されました。古いオペレーティング・システムのWeb ブラウザ用Webサーバーに接続されました。
	-0.7	古い Web ブラウザーが確認されました。古い Web ブラウザーが Web サーバーに接続されています。
運送された情報	<-0.1	認証情報が危険にさらされています。従業員がメールに関連付けられた認証情報が漏洩しました。
ネットワーク・セキュリティ	-0.16	SMB / SaaS サービスが暗号化プロトコルをサポートしています。脆弱なプロトコルをサポートしているSaaSサービスが確認されました。
	-0.6	Elasticsearch サービスが確認されました。データベース管理システムのMySQL が一般に公開されていることが確認されました。
	-0.8	SMBソフトウェアが脆弱なプロトコルをサポートしています。バージョンよりも下のSMB プロトコルをサポートするSMBソフトウェアがサーバーで使用されていることが確認されました。
	-0.4	SMB サービスが確認されました。ファイルおよびプリンター共有サービスのSMBが一般に公開されていることが確認されました。
	-0.1	RDP / RDPクライアントをサポートしているRDSサービスを認識しました。RDP / RDPクライアントをサポートしているサーバードットが確認されました。
	-0.2	MSSQL サービスが確認されました。データベース管理システムのMS SQL が一般に公開されていることが確認されました。
	-0.4	RDP サービスが確認されました。リモート・アクセス・サービスのRDPが一般に公開されていることが確認されました。

SecurityScorecard

www.scs.com/japanese | ホーム | お問い合わせ | KJISB

B アプリケーション・セキュリティ

Web Application Vulnerability モジュールでは、ホワイトハットCVE データベースやブラックハット・エクスプロイト・データ ベース、主要な検索エンジンによってインデックス付けされた機密性の高い検出結果などの方法で特定された、悪用される可能性のある未知の問題に基づく脅威ハンパシキュリティを使用されます。このレビューは、複数の公衆データベースとサイバードロイワイフッドに加え、社内開発されたインテグレーション作成設計エンジンからもデータを取り込みます。今後Webアプリケーションのセキュリティ侵害が起こる可能性はスコアに基づいて判断され、既知の改ざんコードの有無が調べられます。顕明なアプリケーション、デバイスバージョン、アクティブな改ざんなどは、全般的な格付計算にも組み込まれます。

① 最大値「高」  
**HSTS リダイレクト・パターンが安全ではありません**

② 最大値「中」  
**HSTS リダイレクト・パターンが安全ではありません**

③ 最大値「低」  
**CSP ディレクタティブがありません**

④ プラス要素  
**Web サイトが X-FRAME-OPTIONS のベスト・プラクティクスを実装しています**

⑤ 性能向上目標  
**ゼロトラスト原則の実装がないためです**

Web サイトが Content-Type Options のベスト・プラクティクスを実装していないためです

Web サイトが CSP ディレクタティブがありません

Web サイトが X-Frame-Options のベスト・プラクティクスを実装していません

Web サイトが Content-Type Options のベスト・プラクティクスを実装していません

Web サイトが Content-Type Options のベスト・プラクティクスを実装していません

Web サイトが Content-Type Options のベスト・プラクティクスを実装していません

Web サイトが Content-Type Options のベスト・プラクティクスを実装していません

Web サイトが Content-Type Options のベスト・プラクティクスを実装していません

Web サイトが Content-Type Options のベスト・プラクティクスを実装していません

Web サイトが Content-Type Options のベスト・プラクティクスを実装していません

⑥ Web サイトで X-Frame-Options のベスト・プラクティクスが実装されています

+0.1 スコアの影響

説明  
X-Frame-Options は明示的に指定しないと、信頼できない別の Web サイトのページ上のフレームにサイトが埋め込まれる可能性があります。この手段は、ソーシャル・エンジニアリング攻撃をより正確に見つけるために使用されたり、クリックジャック攻撃に関連付けられます。

推奨事項  
「DENY」または「ALLOWFRAME」、ディレクタティブを使用して、ご自身の Web サイトからの応答に次のヘッダーの一列を追加します。  
X-Frame-Options: DENY; X-Frame-Options: ALLOWFRAME  
https://example.com/

2件の抽出結果

ドメイン	初期URL	最終URL	リクエスト・チェーン	分析	脆弱性識別日
xxxxx.com	https://xxxxx.com/	https://○○○.□□□.com https://TencentMassAdminServer https://○○○.□□□.com/TencentMassAdminServer	https://○○○.□□□.com/xHeader missing	TencentMassAdminServer	2023年12月16日

証拠:  
xxxxx.com

証拠:  
https://xxxxx.com/ https://xxxxx.com/ N/A Header missing

2023年12月16日 23:08

⑦ HTTPS リダイレクト・パターンが安全ではありません

+0.4 スコアの影響

サイトのドメイン・リダイレクトの設定が HTTP Strict Transport Security (HSTS) ヘッダーのセキュリティ機能を利用しているため、なりすましサイトや悪意のあるサードパーティーがリダイレクトされる脆弱性がなくなります。

最も深刻なセキュリティ問題は修正済みであるものの見逃され、それらが発生した場合の結果は最悪の場合のセキュリティリスクに対する変更のみであり、いかなる事業活動も中断されず継続することになります。重要な脆弱性は引き続き監視されており、必要に応じて迅速な対応が行われます。また、過去の脆弱性を発見し、修正するための時間を短縮するために、脆弱性診断ツールを導入することで、脆弱性の発生率を低下させたいと考えています。脆弱性診断ツールの導入を検討しており、近いうちに導入予定です。脆弱性診断ツールの導入後は、脆弱性の発生率が大幅に減少することが期待されています。脆弱性診断ツールの導入後は、脆弱性の発生率が大幅に減少することが期待されています。脆弱性診断ツールの導入後は、脆弱性の発生率が大幅に減少することが期待されています。

# リスクスコアリング実例からよく発見されるリスク項目

本サービスをお申込みいただいた診断結果の傾向です。

対象ドメイン : 136  
対象期間 : 2023年7月～8月  
スコア結果 :

カテゴリ	スコア平均
総 合	
ネットワーク	80 (B)
DNSの正当性	87
パッチ適用頻度	86
エンドポイント	98
IPレピュテーション	98
アプリケーション	74
キュービット・スコア	100
ハッカーチャッター	100
漏洩された情報	100
ソーシャル・エンジニアリング	100

スコア平均が低かった2つのカテゴリにおいて、  
多かった脆弱性の項目トップ5

## ネットワークのカテゴリ

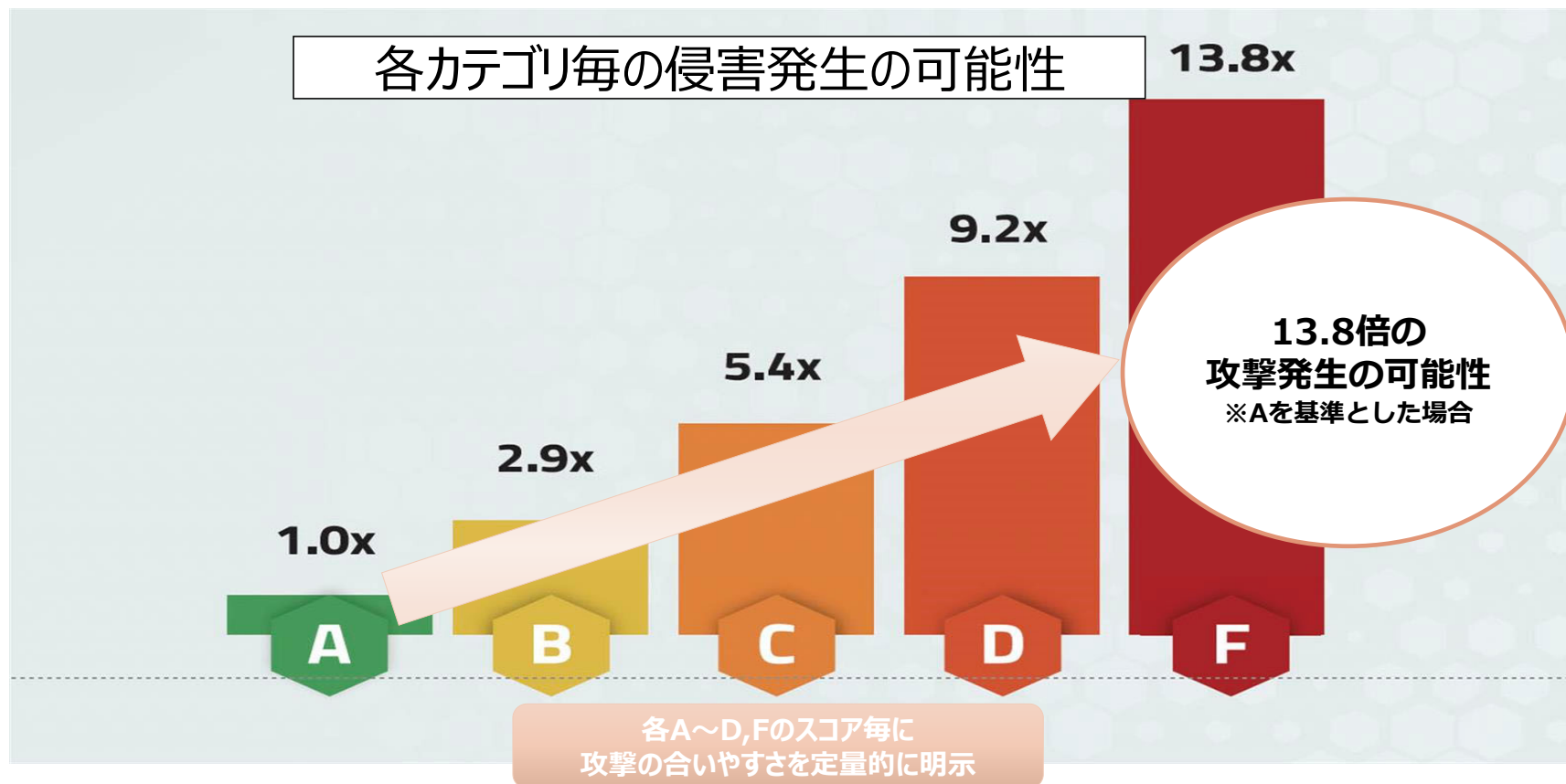
順位	項目
1	SSL/TLS サービスが脆弱なプロトコルをサポート
2	TLS サービスは弱い暗号スイートをサポート
3	証明書は自己署名されています
4	証明書の有効期限が切れています
5	失効管理のない証明書

## アプリケーションのカテゴリ

順位	項目
1	コンテンツ・セキュリティ・ポリシー（CSP）がない
1	X-Frame-Options が推奨設定になっていない
3	X-Content-Type-Optionsが推奨設定になっていない
4	HSTSが推奨設定になっていない
5	HTTPSが適用されていない

# 攻撃されにくい環境を目指す重要性

SecurityScorecard社では、100点満点のスコアと合わせて、「A～D,F」の5段階のスコアを提示します。それぞれのスコアで、「攻めづらさ」を定量的に判断することが可能です。



出典：サイバーセキュリティスコア (<https://www.virosafe.no/cyber-security-score>)

**将来的に『サイバー攻撃を受ける可能性との相関性』をスコアで提示**



## 提供機能③（リスク対策の推奨サービスレポート）

詳細レポートの各項目に対して、リスク低減対策に有効なサービスや対応をNTTコミュニケーションズオリジナルのリスク対策の推奨サービスレポートにて提示します。  
必要な対策が簡単に分かるため、セキュリティ改善にすぐに活用できます。

重大度	項目	概要	対策案	推奨サービス
高	<p>詳細レポートの各項目を記載します。</p> <p>例) Certificate Is Revoked 証明書が失効しています</p>	<p>左記の項目について説明を記載します。</p> <p>例) サーバの証明書がなんらかの理由で失効していることが確認されました。ウェブブラウザなどのTLSクライアントは証明書が失効しているサーバに対しての接続を拒否します。</p>	<p>左記項目について必要な対策案を提示します。</p> <p>例) サービスを利用していない場合は証明書を廃止します。そうでない場合は認証局（CA）に連絡して新しい証明書の発行を手配してください。</p>	<p>NTTコミュニケーションズの具体的な推奨サービスを提示します。</p> <div> <p>NTTコミュニケーションズ オリジナルの対策レポートを提供！</p> </div>

上記の様に詳細レポートで表示される重要度（高・中・低）の各項目について一覧で提供します。



## 提供機能④（診断レポート解説 ※オプション）

オプションとして診断レポート解説がお申し込み可能です。

### ■対象範囲

- ・診断レポートの内容に関する解説と専門的アドバイスを提供します。（10種類の診断カテゴリに分類された全項目）
- ・お申し込みいただいたドメイン（10ドメインまで）が対象です。
- ・10ドメインを超える場合はオプション契約が別途必要です。



### ■提供内容

項目	概要	所要時間	料金
診断レポートの解説	診断レポートの内容について解説を行います。	2時間程度	2チケット
診断レポートの解説とアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・診断レポートの解説とお客さま環境のヒアリング</li> <li>・診断レポート結果に対する専門的アドバイス</li> <li>・実施報告書の提出</li> </ul>	2～4時間程度	3チケット
個別相談	お客様の要件に個別に対応します。	相談	個別見積

※診断レポート解説（オプション）は80,000円（税込88,000円）/チケットです。2チケットからお申し込みいただけます。

# オプション機能のご契約例(定期診断)

## ■ 10ドメインを対象に定期診断と診断レポートの解説オプションを申し込む場合の請求料金

	単価	数量	料金
定期診断	20,000円/ドメイン(税込22,000円)	10	200,000円(税込220,000円)/月
診断レポートの解説	80,000円/チケット(税込88,000円)	2	160,000円(税込176,000円)
合計			360,000円(税込396,000円)

## ■ 11ドメインを対象に定期診断と診断レポートの解説オプションを申し込む場合の請求料金

	単価	数量	料金
申込書1枚目			
定期診断	20,000円/ドメイン(税込22,000円)	10	200,000円(税込220,000円)/月
診断レポートの解説	80,000円/チケット(税込88,000円)	2	160,000円(税込176,000円)
申込書2枚目			
定期診断	20,000円/ドメイン(税込22,000円)	1	20,000円(税込22,000円)/月
診断レポートの解説	80,000円/チケット(税込88,000円)	2	160,000円(税込176,000円)
合計			540,000円(税込594,000円)

※オプションの料金につきましては1回あたりの料金となります

# 申込方法

本サービスのお申し込みは担当営業にお問い合わせください。

Web（ドコモビジネスオンラインショップ）からもお申し込みが可能です。

<https://www.onlineshop.docomobusiness.ntt.com/>TOPページから、  
キーワードから探すを選択いただき「リスクスコアリング」と入力をお願いします。

※ドコモビジネスオンラインショップはお客さまご自身での注文のみ受け付けます。

※標準開通日は**12営業日**です。

その他、本サービスの提供条件などは、ドコモビジネスオンラインショップにも掲載しております。

## 参考) 注意事項

- 定期診断の1回目およびスポット診断のレポートは、ご利用開始日に提供します。定期診断では、2回目以降は毎月1～10日の間に診断レポートを提供します。なお納期は通常12営業日です。
- 変更申込は、プランが“定期診断”の場合のみ対応しています。変更できる内容は、調査対象のドメイン、オプションメニューの追加です。
- 複数回の変更申込は受付をお断りさせていただく場合があります。
- 診断レポートは、レポート作成時点の最新情報で評価します。よって、定期診断の場合、先月から当月の間の情報での評価ではありません。無料診断やスポット診断同様に、毎月、レポート作成時点の最新情報で評価します。
- レポートの言語は、日本語または英語の選択ができます。
- Gmail、Hotmail、Yahoo!メールや、通信キャリア・ISP（インターネットサービスプロバイダー）が提供するメールドメインは診断対象外となります。また、診断対象ドメインが別のドメインのサブドメインとなっている場合など、一定の条件に該当する場合には診断対象外とさせていただくことがあります。
- 診断対象ドメインは、nslookupでDNS情報が取得できるものとします。
- 無料トライアルプランは、申込者が管理するドメインであることを当社が認めたものに限り、具体的に、申込者のメールアドレスのドメインが診断対象になります。また、原則1社につき1回のお申し込みに限ります。

## 参考) WideAngle リスク診断サービスの特徴

	リスクスコアリング	サイバー保険付き脆弱性診断
利用シーン	セキュリティリスク対策について現状を把握したい	特定の自社システムのセキュリティリスクを無くしたい
利用方法	ドメイン情報の提示	対象システムをヒアリングして見積 実施内容の擦り合わせ
調査対象	ドメイン情報からハッカーと同じ手法で調査できる 範囲 (自動化)	自社の特定のシステム (Webアプリ/サーバ/NW機器など)
調査範囲	広範囲	お客さま指定
提供期間	スポット (問合せ3ヶ月) 定期 (月次レポート)	定期的 (スポット) な実施 (1年に1回など)
価格 (税別)	スポット : 8万円/ドメイン 定期 : 2万円/ドメイン	約40万円～
特徴	<ul style="list-style-type: none"><li>外部から見える脆弱性をスコア化</li><li>業界平均と比較</li><li>お客さま環境への負荷がかからない調査方法</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>サイバー保険を無償で自動付帯</li><li>高い品質・培ったスキルによる診断実績</li><li>充実したセキュリティ対策フォロー</li><li>的確な診断報告書の提示</li></ul>

## 参考) 市場ニーズと対策

まずは現状のセキュリティリスクを認識し、必要な対策は何かを把握することが重要です。  
セキュリティリスクを可視化するニーズは市場でも高まっており、市場分析ではセキュリティスコアリングサービスの成長率（CAGR）が19.7%と非常に高い予測結果がでています。

順位	「組織」向け脅威	初選出年
1	ランサムウェアによる被害	2016年
2	サプライチェーンの弱点を悪用した攻撃	2019年
3	内部不正による情報漏えい等の被害	2016年
4	標的型攻撃による機密情報の窃取	2016年
5	修正プログラムの公開前を狙う攻撃（ゼロデイ攻撃）	2022年
6	不注意による情報漏えい等の被害	2016年
7	脆弱性対策情報の公開に伴う悪用増加	2016年
8	ビジネスメール詐欺による金銭被害	2018年
9	テレワーク等のニューノーマルな働き方を狙った攻撃	2021年
10	犯罪のビジネス化（アンダーグラウンドサービス）	2017年

出典：IPA「情報セキュリティ10大脅威2024[組織]」

RANK	品目	2019年度実績（百万円）	2025年度予測（百万円）	CAGR（%）
1	SBOM/脆弱性管理サービス	800	10,500	53.6
2	セキュリティスコアリングサービス	3,300	9,700	19.7
3	スレットインテリジェンスサービス	4,800	13,300	18.5
4	電子認証サービス(運用管理サービス)	500	1,300	17.3
5	レッドチーム演習/ ペネトレーションテストサービス	1,600	4,100	17.0

出典：富士キメラ総研  
2023ネットワークセキュリティビジネス調査総覧（市場編）

**本サービスでは簡単に自社や関連会社のセキュリティレベル・情報資産が狙われるリスクを可視化し、対策案を提供します。**

## 参考) 提供内容 (無料トライアル)

無料トライアルではセキュリティスコア結果のサマリーレポートと、対策サービスレポート、1カ月間のお問い合わせサポートを提供します。無料トライアルの場合、調査ドメイン数は1ドメインまでで、お申し込みいただいたメールアドレスのドメインのみです。

サマリーレポート  
+ リスク対策の推奨サービスレポート



+

1カ月のお問い合わせサポート



レポートについて不明な点があればお問い合わせ可能!

※無料トライアルは、複数回申込がある場合はお断りさせていただくことがあります。

# 【印刷不要】 変更履歴

本ページは「変更履歴」ですので、印刷せぬようお願い致します。

版 数	変更年月日	変更ページ	変更 内容
1.0版	2021年7月5日	ALL	初版
1.1版	2021年9月14日	9 10,11,12 14 15 18	<ul style="list-style-type: none"> <li>・画像差し替え（「提供回数」へ表記修正・推奨サービスレポートの行追加）</li> <li>・画像差し替え（「リスク対策の推奨サービスレポート」追加）</li> <li>・画像差し替え（サンプルレポート引用）</li> <li>・表記変更（「リスク対策の推奨サービスレポート」へ変更）</li> <li>・スライド追加（WideAngle リスク診断サービスの特徴）</li> </ul>
1.2版	2021年12月3日	16	・表記変更（診断レポート解説の対象範囲が10ドメインまでであることを追加）
1.3版	2022年4月7日	ALL	スライドマスター最新化
1.4版	2022年4月21日	1 6,8,9 17	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表記変更（日付を20xx年へ変更）</li> <li>・誤字の修正</li> <li>・表記変更（ICT Business MallのURL変更）</li> </ul>
1.5版	2022年10月14日	4 8 9 10 11 12,13 15 16	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表記変更（困りごとの区分変更）</li> <li>・表記変更（サービス概要を箇条書きに変更）</li> <li>・表変更（無料トライアル、申し込み可能ドメイン数を注釈に移動、定期とスポットの順番入れ替え）</li> <li>・ページ入れ替え（定期診断を移動、無料トライアルは参考に）</li> <li>・表記変更（詳細とサマリーレポート入れ替え、調査ドメイン数を削除）</li> <li>・表記変更（詳細とサマリーレポート入れ替え、調査ドメイン数を削除）</li> <li>・サマリーレポートと詳細レポートのページ入れ替え</li> <li>・表記変更（提供内容を表に、対象ドメイン数注記追加）</li> <li>・表記変更（申し込み方法を営業問い合わせに変更、オプションのICTBMからの申し込み方法を削除）</li> </ul>



## 【印刷不要】 変更履歴

本ページは「変更履歴」ですので、印刷せぬようお願い致します。

版 数	変更年月日	変更ページ	変更 内容
1.6版	2022年12月8日	17	注意事項を追加
1.7版	2023年4月3日	9	料金を税額併記に修正
		15	診断レポート解説の所要時間を変更
1.8版	2023年4月24日	9	無料トライアルの注釈削除
1.9版	2023年6月22日	5,6	文言の修正
2.0版	2024年4月9日	5,6,14,15,16,18,19,21,22	スライド追加、順番入れ替え、文言の修正、出典資料の最新化
2.1版	2024年5月30日	3,13,19	タイトル変更、詳細項目数の最新化、WEB申込ページの変更に伴う申込方法の最新化
2.2版	2024年6月26日	9	「※1契約につき、10ドメインまでお申し込み可能です。」の注釈削除
2.3版	2024年8月14日	14,18,19	文言の修正
2.4版	2025年2月3日	1,2,7	・サービス名の変更（「プロフェッショナルサービス」を削除）